

平成19年度文部科学省委託

「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」

実践研究のまとめ

「わかる授業 楽しい教室 夢広がる学校」づくりのための学校評価

千葉市立真砂第一中学校

1 学校評価の概要

(1) 基本的な考え

本校では、義務教育の質を高めることをめざして、学校評価を教育課程全般について実施してきている。授業や行事の実施にあたっては、内容や方法を常に見直し改善していくことが常に求められている。情報を保護者や地域に積極的に公開し、学校の様子や生徒の生活意識、学習姿勢などを伝えながら、真砂一中での教育活動のよさをひろめてゆきたいと考えている。

学校評価のねらいには次の通りである。

ねらい

- 教育目標の具現化のために外部評価を取り入れて教育活動を見直し、成果や課題を明らかにして学校運営の改善・充実を図ります。
- 積極的に保護者や地域の方々に情報を提供し、学校のよさを理解していただき、学校への応援をお願いします。
- 「特色ある学校づくり」に向けてさらに前進します。

本校では、平成18年度の学校評価を通して以下の改善に取り組んできた。

- 授業研究の実施回数を増やしての授業改善
- 環境整備と安全確保
- 掲示物等の見直し
- 生徒集会や学校便りを通しての、学校教育目標の周知
- 生徒アンケート調査の検討
- 年間指導計画の改善
- 自己評価書の内容、項目の改善検討

さらに、平成19年度は、次の内容に取り組むこととした。

生徒へのアンケート調査内容の検討とその実施
ホームページの改編
各調査の実施時期の検討
学習内容の改善
通知表の項目等の見直し

(2) 評価組織

校内評価委員会（7名）

学校長、教頭、教務主任、研究主任、学年主任（1～3年）

学校関係者評価委員（8名）

青少年育成委員会会長

青少年育成委員会前会長

青少年育成委員会副会長

青少年育成委員会非行対策部長

地区民生委員・児童委員

自治会会長

体育指導委員

P T A会長

(3) 評価計画

保護者による学校アンケート 7月

- ・ 学年毎に集計。グラフを作成して資料として活用する。

職員の自己評価 12月

- ・ 自己評価書 と自己評価書 を作成する。
- ・ 自己評価書 は、18年度より のアンケートと関連づけられるように設定してある。

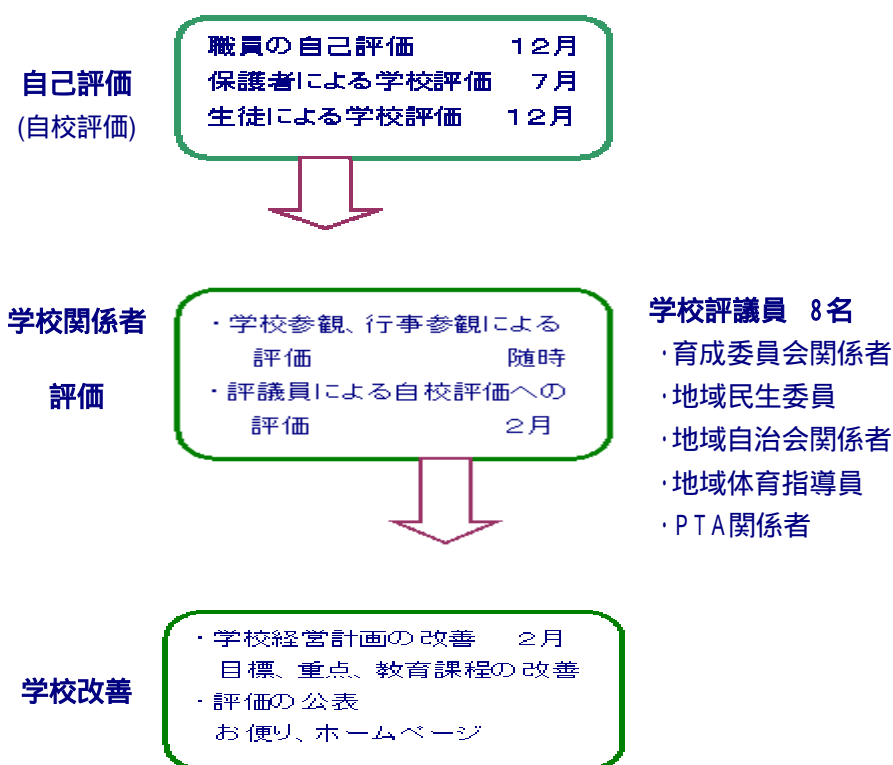
生徒による学校アンケート 12月

- ・ 学年毎に集計。グラフを作成して資料として活用する。
- ・ 、 との関連を図れるように設問を工夫した。

学校関係者評価 2月

- ・ ~ の資料に加えて、外部評価書を作成して諮問する。
- ・ 評価の妥当性や改善にむけての意見を伺う。
- ・ 行事等へ参加していただいた際の感想等を含めて総括をする。

評価の流れ



2 自己評価について (全教職員対象)

本校の教職員対象の自己評価は2通りのものを実施している。

ひとつは、教育課程全般について幅広く実施するものであり、もうひとつは保護者のアンケートに関連付けたものである。このふたつの自己評価を実施することにより、「職員の中での自己評価」(自己評価書) と「保護者のアンケートとの比較に基づいた評価」(自己評価書)の、ふたつの側面から質の改善に迫ることができる。

一方、データの量が増えてしまうことと内容が重複してしまうといった課題もでてきている。質問項目の精選を図ってきているが、今後はさらに内容についての精査をすすめていきたいと考えている。

(1) 全職員対象の自己評価の項目

- 1 教育目標
- 2 学年・学級経営
- 3 教科指導等
- 4 評価
- 5 道徳指導
- 6 生徒指導
- 7 生徒会活動
- 8 行事等
- 9 行事への取組
- 10 環境整備
- 11 保護者地域との連携
- 12 特色ある学校づくり
- 13 組織

自己評価書				千葉市立真砂第一中学校 19年度			
項目	具体目標	自己評価結果		考察・改善策	備考		
		達成度	取り組みの状況				
教育目標	1 保護者に教育目標や経営方針を理解してもらう	2.47	1 一昨年度の学校評価結果および新たな教育改革の動向を踏まえ、16年ぶりに学校教育目標を変えた経緯がある。	1 集会や「学校だより」などを通して、生徒や保護者に学校教育目標を理解してもらい、ひきつづき努力をしていきたい。	・教育目標は見直してきた経緯があるのでよいと思う。今後は、周知することに努力してほしい。		
	2 教育目標を念頭に教育活動を実践する	2.80					
	3 生徒に教育目標を理解してもらう	2.40					
	4 教育目標はわかりやすく評価しやすい内容である	2.87					
	5 評価結果がフィードバックされるようにする	2.33					
学年・学級	1 学年の経営方針を学級経営に生かす	2.92	1 全体的に高い評価であるが、一部低い評価も見られる。 2 各担任を中心として学年、学級経営の見通しを立て取り組んできている様子がうかがえる。	1 学級指導の中心は担任であるが、小規模校の強みを生かし、全職員で一人ひとりの生徒に心の通った指導を続けていく。 2 生徒の活動やその結果を認め、ほめる機会を多く持ち、さらなる活性化を図る。 3 学級活動については、今後さらなる工夫・改善が必要である。	・先生方が学校運営によく努力していると感じている。		
	2 学級目標のねらいが生徒に十分理解されている	2.58					
	3 生徒の実態を十分考慮して学級経営案を作成する	3.00					
	4 学級活動の指導計画をきちんと作成し、十分に活用する	2.18					

(2) 保護者アンケートと比較する自己評価の項目

- 1 全般
- 2 学校生活・生徒指導
- 3 教科指導・道徳指導
- 4 保護者・地域との連携
- 5 その他

自己評価書 (保護者による評価と職員による評価の比較)				千葉市立真砂第一中学校 19年度			
項目	保護者による学校評価		職員の自己評価		考察・改善策等		
	全般	1 教師は校長を中心に、一致協力して教育にあたっている。	3.2	1 一丸となって協力して教育活動を行っている。	2.7	2.7	学校の教育活動については、概ね保護者に理解されている。今後さらに地域に根ざした教育活動を展開していきたい。
2 学校全体のふんいきが明るく、活気がある。		3.3	2 学校全体のふんいきが明るく、活気がある。	2.9	2.9		
3 学校の教育活動に全般的に満足している。		3.1	3 十分な教育活動を実施していると感じている。	2.5	2.5		
学校生活	4 生徒は毎日楽しく学校に通っている。	3.4	4 充実した学校生活を送っている生徒が増えている	2.7	2.7	生徒アンケートの結果からは、8割の生徒が学校生活を「楽しい、概ね楽しい」と感じている。生徒の気持ちを大切に指導を積み上げたい。 身だしなみや遅刻等については、職員と保護者の捉え方に温度差がある。全校生徒の意識を高めるように改善をすすめたい。生徒のアンケート(3)の結果からも生活面については、さらなる改善ができると考えられる。	
	5 教師は生徒のことを理解している。	3.2	5 生徒の観察、内面的理解は十分にされているか	2.8	3.1		
	6 生徒は学校行事や生徒会活動に積極的に参加している。	3.2	6 生徒に声をかけるなど、生徒と積極的に接するように努めたか	3.3	2.6		2.5
			7 生徒の、生徒会行事への参加意欲や態度はどうか	2.3			
生徒		8 学級活動の中で、生徒会活動への関心は高まっているか	2.6	2.6	2.7		
		9 顧問の指導により、生徒の自主的な活動がなされているか	2.6				
		10 行事に進んで取り組む生徒が増えているか	2.7				
	7 部活動は盛んで、子どもは積極的に参加している。	3.2	11 部活動に積極的に参加している生徒が多い。	3.1	3.1	部活動や行事の参加については、各アンケート結果からも有意義なものとなっていることがわかる。	

各項目について、5～10程度の設問を設定し、4段階で評価した。(2)の保護者アンケートとの比較評価では、対照表をつくり考察や改善点を加えた。

3 外部アンケートについて（生徒・保護者）

(1) 保護者アンケート

保護者へのアンケートを無記名で7月に実施した。設問については、昨年度と同じ内容にした。アンケートの内容は次の通りである。

【全般】

- 1. 教師は校長を中心に、一致協力して教育にあたっている。 (4 3 2 1)
- 2. 学校全体のふんいきが明るく、活気がある。 (4 3 2 1)
- 3. 学校の教育活動について全般的に満足している。 (4 3 2 1)

【学校生活・生徒指導】

- 4. 生徒は毎日楽しく学校に通っている。 (4 3 2 1)
- 5. 教師は生徒のことを理解している。 (4 3 2 1)
- 6. 生徒は学校行事や生徒会活動に積極的に参加している。 (4 3 2 1)
- 7. 部活動は盛んで、子どもは積極的に参加している。 (4 3 2 1)
- 8. 生徒は遅刻せず、身だしなみもきちんとしている。 (4 3 2 1)
- 9. 生徒は規律ある学校生活を送っている。 (4 3 2 1)

【教科指導・道徳指導】

- 10. 教師はわかりやすい授業を心がけ、授業の工夫改善に努めている。 (4 3 2 1)
- 11. 自ら学習しようとする姿勢が見られる。 (4 3 2 1)
- 12. 社会生活で求められる道徳性が身についている。 (4 3 2 1)
- 13. 思いやりの心が育っている。 (4 3 2 1)

【保護者・地域との連携】

- 14. 学校は保護者や地域との連携に積極的に取り組んでいる。 (4 3 2 1)
- 15. 保護者から見て、学校は行きやすい雰囲気がある。 (4 3 2 1)
- 16. 学校からの通知文はわかりやすく情報提供がきめ細かく行われている。 (4 3 2 1)

【その他】

- 17. 学校は生徒の安全（パトロール・小破修理）に配慮している。 (4 3 2 1)
- 18. 教育環境（掲示物、清掃、花壇）の整備に努めている。 (4 3 2 1)
- 19. コネチカット州との交流は国際理解に役立っている。 (4 3 2 1)
- 20. 朝読書の実施により、生徒の家庭での読書時間が増えたと思う。 (4 3 2 1)

(2) 生徒アンケート

生徒へのアンケートを実施した。当初12月に実施の予定であったが、内容等を検討するのに予想以上の時間がかかってしまい1月下旬の実施となってしまった。今回実施した内容で平成21年度までの3年間にわたって実施していく予定である。

設問は保護者へのアンケートと関連づけ、5つの項目に分けた。回答方法は評価数値ではなく、あてはまるものを選択する方法を取り入れた。アンケートが生徒にとって身近な内容になるようにも配慮し、なるべく建設的な姿勢で回答できるように配慮した。これにより単にデータの収集にとどまることなく、教職員と生徒がともに努力していく雰囲気も高まっていくのではないかと期待している。

長期的な見通しとしては、生徒会等によるアンケートの実施をめざしたいと考える。

生徒用アンケート				
このアンケートは、学校生活をより良くしていくとするものです。自分の考えで記入してください。回答に迷った場合は、自分の判断で番号を選択してかまいません。				
(1)	真砂一中での生活は、楽しく有意義である(役立っている)と思いますが、ひとつ選びをつけてください			
	1	とても楽しく有意義である		
	2	おおむね楽しく、役立っている		
	3	あまり楽しくない		
	4	ほとんど楽しくない		
(2)	あなたが、楽しく有意義である(役立っている)と感じるのはどんなときですか、あてはまるものを選びをつけてください。(いくつ選んでもよい)			
	1	授業中など、学習をしているとき		
	2	体育祭や文化発表会などの学校行事にとりくんでいるとき		
	3	専門委員会や生徒会活動に参加しているとき		
	4	学級での活動や学年での活動に参加しているとき		
	5	職場体験や福祉体験にとりくんでいるとき		
	6	清掃やボランティア活動にとりくんでいるとき		
	7	部活動に参加しているとき		
	8	その他		しているとき
(3)	あなたが身についていると思うことを選び、をつけてください。(いくつ選んでもよい)			
	1	時間を守って、遅刻せずに登校すること		
	2	服装を整えていて、清潔感があること		
	3	授業の準備をして、2分前着席をすること		
	4	決められた仕事や係活動に責任をもってとりくむこと		
	5	自分からすすんで仕事をしたり、ボランティア活動をする		
	6	友だちや仲間のことを大切にすること		
	7	ていねいな言葉づかいをすること		
	8	部活動に熱心にとりくむこと		
(4)	あなたの授業や学習へのとりくみについて、あてはまるものを選びをつけてください。(いくつ選んでもよい)			
	1	先生の説明をよくきいている		
	2	ノートをよくとっている		
	3	わからないことを調べたり考えたりして、自ら解決するようにしている		
	4	宿題は決められた期日までにやっている		
	5	意見を伝えようと、授業中によく発表をする		
(5)	あなたの読書のようすについて、あてはまるものを選びをつけてください。(いくつ選んでもよい)			
	1	登校後の朝読書の時間には、本を用意して読書している		
	2	朝読書以外にも、読書することがある		
	3	中学生になって、読書の量は増えている		
	4	読む本の種類など、読書への興味がひろがっている		

4 学校関係者評価について

学校関係者評価は、授業参観、学校行事等の随時実施している評価と、2月に「外部評価書」を作成しての評価を実施した。

外部評価書の項目は全職員を対象とした自己評価書をもとにして設定した。保護者と生徒のアンケートとの関連を示しながら、校内評価委員会での評価の妥当性と、改善にむけての意見を諮問した。

(1) 授業参観、学校行事等での随時評価で出された主な意見

- ・ 福祉体験では、内容をよくまとめて発表していた。
- ・ 体験発表では聴く側に集中力に欠ける生徒がいた。今後のよい影響が育つように願っている。
- ・ ボランティアによく取り組んでいる生徒がいる。家庭環境の影響が大きいと考えられる。
- ・ 電車内で自然に席をゆずれるような生徒を育ててほしい。
- ・ 校舎は古いがよく整備してある。花壇等は特にきれいである。

(2) 自己評価書について出された主な意見

- ・ 今の道徳の内容はどうなっているのか？
- ・ 道徳や生活指導は現実と結びつけて成果をあげたい。ディスカッションなどを取り入れるとよい。
- ・ 話し合いなど生徒同士の活動が弱いと感じる。
- ・ 感情的にならないで生徒にしつけていってほしい。

(3) 外部評価書について

校内評価委員会の評価の妥当性

概ね評価は妥当であると判定された。

環境整備、安全管理については、教職員の努力がもう少し評価されてよいのではないかという意見がだされ、「B - 」から「B + 」に修正された。

主な意見

- ・ 生徒との良好な関係をさらにつくりあげてほしい。
- ・ 保護者にプライドがあり、親としての十分に相談できない時期がある。援助をすすめてほしい。
- ・ 生徒の自浄活動を活発にし、生徒自身による生活改善をすすめていくとよい。
- ・ 内容、方向性ともに良好なので継続してほしい。
- ・ 学校全体が一丸となって取り組んでいる様子がありよいと思う。
- ・ 学校の環境整備は概ねよい。現在の問題点を明らかにして、生徒とともにさらに整備していく姿勢をもつとよいのではないか。
- ・ さらに伸ばしてほしい項目である。生徒と親のコミュニケーションが不足しているため、学校側の努力が必要な時代になっている。地域への回覧、掲示などの依頼もできる。

外部評価書		千葉市立真砂第一中学校			
A……極めて良好		B……概ね良好		C……早急な改善が必要	
		(Bについては、さらに、B +、B -、の順にわけてあります)			
項目	評価	講評および改善にむけての意見			
1	教育目標	B			
2	学年・学級経営	B			
3	教科指導等	B -			
4	評価	B +			
5	道徳指導	B -			
6	生徒指導	B			・生徒との良好な関係をさらにつくりあげてほしい。 ・保護者にプライドがあり親としての十分な指導が仕切れない時期があるので、学校としての援助をすすめてほしい。
7	生徒会活動	B			・生徒の自浄活動を活発にし、生徒自身による生活改善をすすめていくとよい。
8	行事等	A			・内容、方向性ともに良好なので継続してほしい。
9	行事への取り組み	A			・学校全体が一丸となって取り組んでいる様子があり良い。
10	環境整備、安全管理	B +			・学校の環境整備は概ねよい。現在の問題点を明らかにして、生徒とともにさらに整備していく姿勢をもつとよいのではないか。
11	保護者、地域との連携	B			・さらに伸ばしてほしい項目である。生徒と親のコミュニケーションが不足しているため、学校側の努力が必要な時代になっている。地域への回覧、掲示などの依頼もできる。
12	特色ある学校づくり	A			
13	組織	B			
14	読書活動	B +			・ぜひ、つづけてほしいと思う。

5 学校評価の成果と課題について

平成 18～19 年度の 2 年間にわたっての研究を通して、多くの成果を得ることができた。

本校では本研究以前に既に保護者へのアンケート結果や教職員の評価を教育課程の実施に生かしてはいたが、それぞれが単発的に実施されていた。いくつかの調査内容を精選し関連づけ、保護者や地域の願いに答えていく学校づくりが求められていたのである。

今回の取り組みで、生徒へのアンケートの新たな実施を含めて、複数のアンケート調査や評価を関連づけ、ひとつのシステムとして作りあげることができた。今後の学校運営にぜひ生かし、保護者や地域の理解を深めていきたいと考える。また今回の研究機会によって、教職員全体の学校改善への意識の高まりについても特筆しておきたい。

(1) 成果

- ・ 保護者アンケート、生徒アンケート、自己評価書、自己評価書、学校関係者評価による「学校評価システム」を概ね構築することができた。
- ・ 複数の調査や評価を関連づけることができた。
- ・ 教育活動全般を改善していこうという意識が高まってきている。
- ・ 行事への取り組みなど、生徒活動に深く関わる部分では、改善の効果が現れてきている。
- ・ 生徒や保護者へのアンケートを通して継続的なデータを蓄えることができた。
- ・ 生徒へのアンケートでは、設問内容や実施の時期について検討する機会を数多くもち、研修を深めることができた。
- ・ 授業研究等を通して、授業内容の改善が図られてきた。
- ・ 保護者や地域の方々の意見を伺う機会が増えるとともに、地域周辺の方々の学校への関心が高まりつつある。
- ・ 学校関係者評価では、学校評議員の方々の意見を率直に伺うよい機会となり、充実した会議を開くことができた。

(2) 今後への課題

- ・ 「学校評価システム」を、より有効に機能させるための運用の在り方について
- ・ 「わかる授業 楽しい教室 夢広がる学校」づくりをめざした学校評価の在り方について
- ・ 生徒や保護者へのアンケート内容の精選について
- ・ 調査結果の分析と考察について
- ・ 公表方法とその範囲
- ・ 集計方法の効率化

(3) まとめ

平成 18～19 年度の本研究によって、千葉市立真砂第一中学校での学校評価システムの運用について、雛形をつくりあげることができた。平成 20 年度については本研究を踏襲する形で学校評価を進めていきたいと考えている。さらに、平成 21 年度以降については改善を加えながら、より効果的な学校評価を実践していきたい。